

建築設備耐震設計チェックリスト

建築基準法施行令第129条の2の4、建設省告示第1388号及び第1389号の耐震規定に基づき設計チェックしたところ、下記表のとおり支障箇所はありません。

1. 耐震設計 設置する設備機器に○印（その他記入）【機器重量100kg以上のもの】

高架水槽、中間水槽、受水槽、膨張タンク、貯湯槽、ボイラ、冷凍機、空調機、ファン類、ポンプ類、自家発電装置、燃料タンク、キュービクル、蓄電池、配電盤、変圧器、厨房機器、電算機、（ ）、（ ）、（ ）

設置位置	機器名称	震度 Kh	有効重量	φ W・L・H (cm)	架台 (m)	取付ボルト			アンカーボルト	基礎		計算方法 (注1)	躯体 (注2)	チェック結果
						種類	片側本数	総本数		種類	タイプ			
最上階・屋上・塔屋														
2階床以上														
地階・1階														

(例)

屋上	高架水槽	1.0	4000kg	球形 φ 200cm	2m	M10	2本	8本	埋込型 M16 8本	はり形	E	b	○	良
----	------	-----	--------	------------	----	-----	----	----	------------	-----	---	---	---	---

2. 耐震措置

(1) エキスパンションジョイント部

位置	配管等	δ = 2・R・h	変位吸取措置		チェック結果
			X方向	Y方向	

(例)

屋上	給水管	2 × (1/200) × 20 = 20cm	○	○	良
----	-----	-------------------------	---	---	---

(2) その他、建築物導入部、機器と配管の接続部、横引配管等

配管等	建築物導入部		接続部		配管支持 (注3)			チェック結果
	X方向	Y方向	X方向	Y方向	A種	B種	その他	

(例)

給水管φ 75φ	○	○	○	○	屋上、7F	1F~6F		良
----------	---	---	---	---	-------	-------	--	---

設計者氏名	登録第 号						印
構造・階数	造	地上	階	地下	階	高さ m	用途
建築場所							
申請者氏名							

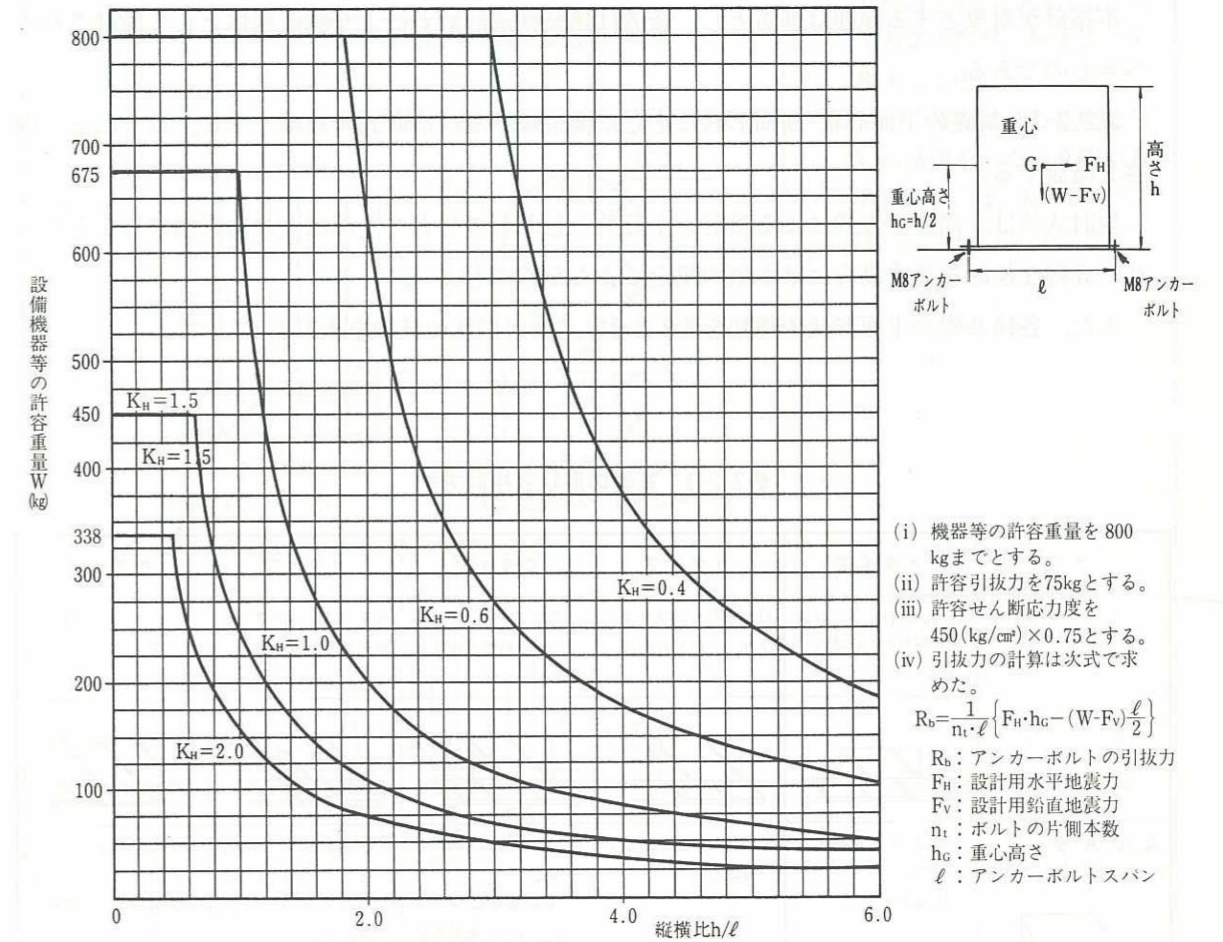


図2.1-8 設計用水平震度と設備機器等の縦横比による許容重量

(注1) a, b のどちらか記入。
a: M8以上のアンカーボルト4本以上で床上に据え付けられ上表を利用する場合
b: 計算式を用いてアンカーボルトの強度を検討した場合。

(注2) 当該機器重量が躯体構造計算の条件に入っている場合は、○印を記入する。

(注3) 階数を記入する。

※ この用紙はA3に拡大して使用してください。

※ 参考図書「建築設備耐震設計・施工指針」日本建築センター